奈良町のちょっといいところを見て知る秋の1週間
～きたまち・ならまち・高畑・京終～
2022年6月9日発行

奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No. 2

第二回の実行委員会、いよいよ内容にかかわる議論もスタート！

田中宏一さん（さんが俥座）

まず「実行委員会」という名前は固すぎると思うんです。この集まりは想いを持って集まっている人たちの集まりでしょ。だから、「～プロジェクト」とか、「ＮＰＯ、〇〇法人」とかの方がいいんじゃないかなぁと。

あと、僕はビジネスが大切だと思うんです。それは単にお金儲けが目的じゃなくて、地域のためになる活動を続けるには、ボランティアだけでは行き詰まるから、内容的にも金銭的にも。そこでビジネスが必要になるんです。そこで得た収入は地域のために活かせるから、まちづくりのためにもビジネスを視野に入れていく必要があるんです。

奈良町見知ルは名前も企画もいいし、協力者もたくさんいる。だから、いいプロジェクトになると僕は思います。

東 拓実さん（天理大学）

田中さんへのインタビューを通じて感じたのは、「お金」の大切さについてです。田中さんのお話の中でも度々登場した「ビジネス」という言葉について自分が大学で学んでいる分野からは少し縁遠い話だと考えていました。しかし、そうではありませんでした。地域のために取り組む事業にも予算がありますし、その事業を持続的に展開していくためにもさまざまな条件作りが必要で、その一つに「お金」があります。それは、まちづくりにおいても同じです。そこで資金を安定的に確保していくための工夫や仕組みを考える重要性を、田中さんのインタビューを通じて学ぶことができました。これからも「ビジネス」という視点に関心を寄せながら、活動に取り組んでいきたいと思います。

荒木 涼介さん（天理大学）

南都春日山不空院の三谷さんにインタビューさせていただいた。

まず、今回の実行委員会について「話が楽しく、かつ内容もまとまった」と語られた。昨年と比べて新しいメンバーや学生が入って年齢層が広がったが、垣根なく会議が進行していたという印象にも触れられた。

また、三谷さんにとっては二年目となる今年の奈良町見知ルであるが、昨年は「ひっぱろうとした」とご自身のかかわりを振り返りつつ、その経験値を活かして今年も「いけそうだ」と手応えを感じられているようだ。「祭の中でも企画をしたい」といったアイディアもうかがった。

さて、三谷さんの活動の拠点である高畑エリア。その魅力は、「一言でいうと、都会の中の田舎」であること。近鉄奈良駅周辺から少し足を伸ばすだけで、都会らしい町並みから自然豊かな景色を楽しめる。野生動物も「ハクビシンでも、なんでも出る」。また、少し土地が高いところにある高畑エリアは、冬になると雪が降る日もある。駅方面に「一つ信号を降りたら雪がもう降っていない」といったことも。都会の仲の田舎、自然や季節の移ろい、人の温かさが魅力の高畑エリアに訪れてみたい。

萩原 敏明さん（ＮＰＯ ＫＹＯＢＡＴＥ）

みんな自分のまちが好きなので、四つのエリアの「ちょっといいところ」は実行委員の皆さんそれぞれでよくご存じのはずです。しかし、それを秘密にしておくんじゃなくて、「地域の宝」として発信するのが奈良町見知ルのいいところだなと思います。この会議に来てくださっている地域の方々それぞれが素敵やなと思います。そんな方々が好きなことだったり、それぞれの素敵な人柄だったりが伝わるような広報や発信をしていかないとな、とあらためて思いますね。こうやって種をまくようにスタートして、最後には奈良町見知ルという大きな花が咲いたらいいなと思っています。

だから、そのためにも学生さんにももっと意見が聞ければいいなと思います。その意見が良くても悪くても、そこから一つのなにかが立ち上がってくることもありますからね。

田辺 七海さん（天理大学）

奈良町見知ルの実行委員の皆さんは、萩原さんもおっしゃるように素敵な方ばかりで、奈良町のことをこよなく愛されているのが伝わってきます。その素敵な人たちが集まって、さらに地元の方々とつながってその輪を広げて、奈良町見知ルという一つの大きな目的に向かっていくプロセスは、私たち学生にとっても大きな刺激になります。奈良町が元気になっていく姿をこの実行委員会の話し合いにみることができるのではないかとも感じています。

そんな素敵な姿をより広く伝えていけるように、そこに少しでも学生が貢献できるように、自分自身も楽しみながら考えていきたいと思いました。

荒木 涼介さん（天理大学）

五月下旬、役員会に出席されたの川頭史空さん（学生団体あそぶなら）に話をうかがいました。

この日が二回目となる役員会議では、奈良町見知ル全体の進捗や今後の見通しを確認・共有されました。あそぶならとしては、企画提案日となる六月一日に向けても頑張りたいと意気込まれていました。

今の心境は「やっとはじまった…」とのこと。実行委員会も本格始動し、あそぶならとしてのイベントの企画提案もあります。ご自身の今後のかかわりについて、具体的にイメージされているようでした。特に若い世代を奈良町見知ルにつなげられるように、実行委員会での意見や提案に力を入れていきたいということでした。

同じ学生として、私も共感する話でした。奈良町見知ルは、若者が奈良町の魅力に触れることのできる機会にもなります。さらにさまざまな世代が出会い、つながっていくような動きにつなげていけたらと思います。

夜の奈良町にぎわい課にて、奈良町見知ルの役員会も動いています！

実行委員会の体制もかたまり、五月下旬より役員会も始動しました。とっても和やかなムードの中、今日も会議が始まります。役員ではなくとも、実行委員のどなたでも参加大歓迎です！

奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.2

２０２２年６月９日発行

編集責任者：杉山 晋平（天理大学）

取材・執筆：東 拓実、荒木 涼介、田辺 七海（以上、天理大学）

連　絡　先：shimpei@sta.tenri-u.ac.jp